

結果へのたゆまぬ努力 夢はプロレーサー

くらたに かいり

倉谷 俠俐 さん

自転車競技
名古屋たちばな高等学校3年生

プロフィール

名古屋たちばな高等学校自転車部部長。1年次より全国大会に出場し、インターハイや選抜大会など多くの大会で上位入賞の実績を残す。令和7年4月にはイタリアで開催された世界レベルのレースに日本代表選手団の一人として選出され出場した。

——自転車競技を始めたきっかけは？

父が高校時代に自転車競技の選手で、そのビデオを観て憧れたことがきっかけです。ロードバイクには小4から乗っていました。

部活では、小学校で野球とサッカー、中学校で陸上をしていました。でも、高校では自転車競技に進もうと思っていたので、家で自転車の練習に励み、個人で大会にも出場していました。中3の時には、アンダー15のカテゴリーで、初出場で全日本4位になりました。

——自転車競技の魅力は何ですか？

自転車に乗ること自体が楽しいですね。また、強くなることが分かりやすいスポーツだと思います。

——高校3年生の現在、自転車部で部長を務めています。

どのような気持ちや心構えで部活に臨んでいますか？

部員にはいろいろな人がいます。力や価値観は一人ひとり違うので、練習の質や量など細やかな気配りを心掛けています。その中で部の一体感を高め、強くなっていきたいです。

——今年4月には日本代表選手団の6人に選出され、イタリアの世界レベルのレースに参加されました。



現地のレースでは、120kmを3時間半ほどで走りました。強さ、技術、練習の取り組み方など、日本での競技が楽過ぎると感じるほど、全てにおいてレベルの差を実感しました。また、選出されたメンバーも強い人ばかりで、日本代表のコーチの指導も受けることができました。練習はきつかったですが、とても貴重な経験でした。



——今年のインターハイや選抜大会の結果はどうでしたか？

選抜大会では、トラック種目(4km速度競走)が8位、個人ロードレースが5位でした。トラックは優勝する気満々だったので、悔しかったです。

インターハイでは、個人ではポイント・レースで6位入賞しました。もう少し上を狙いたかったのですが、ラスト1周で落車して完走できず、ポイントで入賞できました。チームでは、トラックレースの4kmチーム・パーシュートで7位に入りました。1年生の弟(希輝さん)も一緒に走っています。ただ、この時は落車時のけがもあり、自分は完走がやっとでした。

——ハードなスポーツですね。リフレッシュ方法はありますか？

家のお風呂が、一番のリフレッシュ方法です。今はけがをして入れないので、睡眠を十分に取ってリフレッシュしています。

——自転車競技を続けてきて良かったこと、嬉しかったことは？また、悔しかったことはありますか？

結果が出せたときは嬉しいです。最近ではイタリアの選抜に選ばれたときや、選抜大会で入賞したとき、特に嬉しさを感じました。

逆に、こけた(落車した)ときは悔しいです。イタリアでは完走しましたが、3回もこけました。自転車もよく壊します。競技を始めてから、今の自転車は8台目です。

——将来はどのような選手になりたいですか？また目標は？

高校卒業後は大学に進学し、競技を続ける予定です。ずっとロードレースをメインに取り組んできたので、トラック競技にも力を入れます。最終的には競輪やプロのロードレーサーになり、世界で活躍したいですね。

(正木先生) 彼はオールラウンダーで、どの種目でもトップで走れる実力があります。すごく研究熱心で、負けず嫌いなことが彼の強さでしょう。学校としては、競技を通して人間性を高め、彼を中心に、良い成績を残せるチームを作り上げていきたいです。

——これからも競技会が続きますが、頑張ってください。